

## 平成 31 年度国庫補助修理事業概要

平成 31 年度（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）は国庫補助金を受けて重要文化財「紺紙銀字華嚴経卷第四十六（二月堂焼経）」の修理を行っています。

重要文化財「紺紙銀字華嚴経卷第四十六（二月堂焼経）」は、奈良時代に東大寺で制作された写経で、紺色の紙に銀の文字で書かれています。この作品は、二月堂焼経とも呼ばれています。それは江戸時代の寛文 7 年（1667）、東大寺二月堂が火災にあった際、火中から救出されたものだからです。

### ●【修理の目的】

作品の紙の状態が悪化していました。特に江戸時代に被災した際に、焼け焦げ、炭化した箇所が脆くなっていました。このままでは、今後さらに損傷が進行する危険性があることと、取扱い上も危険な状態にあることから、修理が必要と判断しました。修理が完了すれば、作品の安全性が保たれ、取扱いにも問題がなくなり、将来にわたり作品を展示・保管できるようになります。

### ●【全体の修理期間】

平成 29 年 11 月から令和 2 年 3 月まで、3 ヶ年かかる修理事業で、今年は 3 年目にあたります。

### ●【修理体制】

根津美術館が修理専門業者に委託して行っています。

### ●【修理費について】

国（1,149,000 円）・都（574,000 円）からの補助金交付分と当館の負担分（575,240 円）とを合わせて修理費の総額（2,298,240 円）を賄っています。

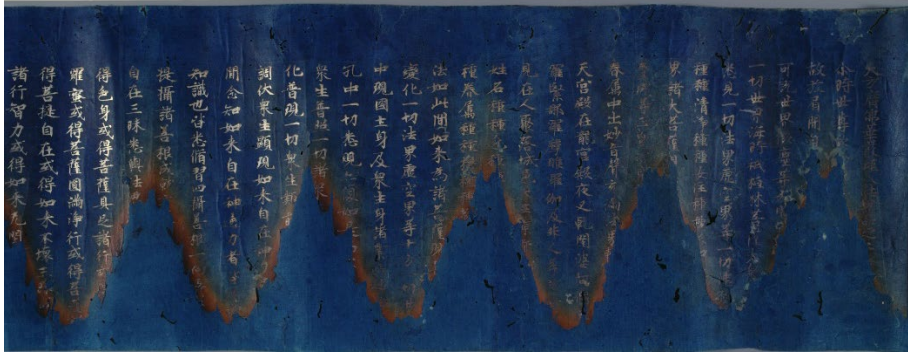
### ●【31 年度修理内容の概要】

- ① 新たな補修紙、裏打ち紙の試作、検討、製作を行います。（前年度から継続）
- ② 本紙に部分的な補強を施します。焼損部は脆くて危険な状態にあるため、補強のための裏打ちをします。
- ③ 本紙に新規裏打ちをします。
- ④ 経巻の本紙下辺（焼失部）に①で製作した補修紙をあてます。
- ⑤ 表紙を仕立て、軸棒、表紙等を取り付け仕上げます。

●【修理イメージ】

(修理前 第1紙)

紙の状態が悪化していました。



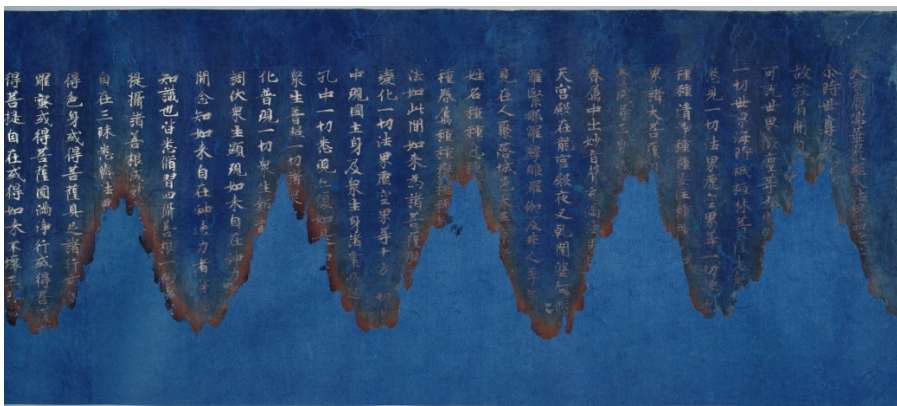
(修理中 第1紙)

本紙の裏打と補修紙を兼ねた紙を除去した状態。焼損部分は大変脆くなっているため、この部分に表から養生紙をあてた後、本紙の裏打と補修紙を兼ねた紙の除去作業が行われました。



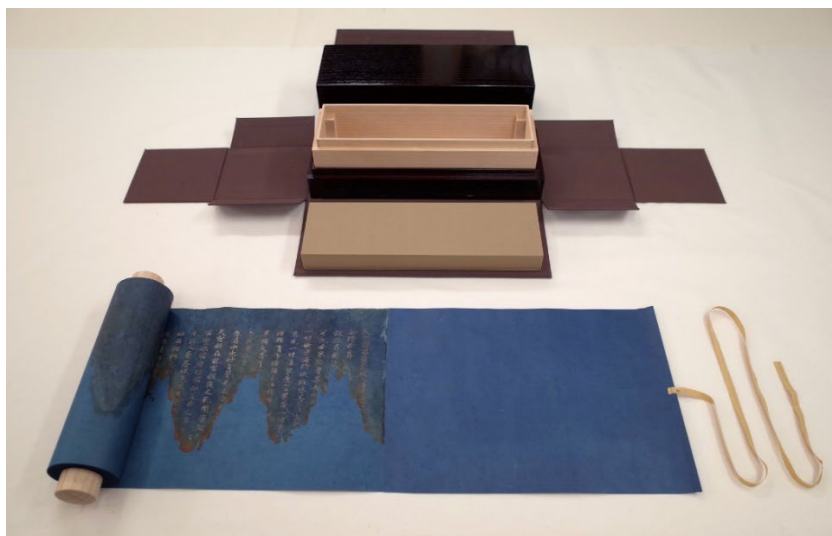
(修理後 第1紙)

焼損部と本紙への裏打が行われ、本紙下辺には新たな補紙があてられました。



(修理後 全体)

表紙を仕立て、軸棒、表紙等を取り付け仕上げました。紐や太巻、箱も今回の修理で新調したものです。



本事業は文化庁美術工芸品重要文化財修理事業国庫補助金の交付を受けて実施されています。

Supported by the Agency for Cultural Affairs. Government of Japan in the fiscal 2019